『読書への誘い
～想像力・創造力を磨く～』

至誠館大学　現代社会学部
教授　吉田　安孝



私が教員として勤めていた小学校では、読書の日や読み聞かせボランティア、図書館祭りなどの取組を行っていました。これは、全国学力・学習調査などの結果から子どもの読書時間が減少していることが明らかになり、管轄する教育委員会の施策としてだけでなく、現場教員の危機意識の下、子どもの読書習慣の確立を目指そうと考えたからです。学生の皆さんの中には「小中学生の頃にそういった取組があったな」と思い出せる人がいるのではないでしょうか。

さて、現代を生きる多くの人は、読書をすることよりもスマホを眺めることに多くの時間を費やしていると思います。スマホは、片手で操作できて多くの情報を手軽に入手できるツールとして非常に効果的だからです。一方の読書は、本の準備のために買ったり借りたりしないといけないし、何冊もあるとかさばるという理由などから、おっくうになっているのだと思います。これは、今どきの言い方をすれば、タイパ・コスパはスマホが優れ、読書が劣っているといったところでしょうか。

でも、なぜ学校では図書館教育や読書習慣の確立を推進するのでしょう。それは、読書がスマホやパソコンよりも優位な特性をもっているからです。このことは川島隆太（2023）が著書『本を読むだけで脳は若返る』で示しています。内容を紹介すると「ICTの発達によって、映像による情報伝達が増えている。（中略）映像は楽に情報を受け取ることができる代わりに、想像の多様性が失われる面があるのである。映像は、結局のところ、それを作った人が見ている世界をトレースするだけ」ということです。また「学習用のアプリであっても、スマホ・タブレットを使いすぎると学力を押し下げる力がある」ことも実験結果から明らかにしています。一方の読書に関しては、「デジタルコンテンツよりも紙媒体のほうが、全く同じものを読んでも語彙の習得や文章の理解、応用力の習得が異なり、明らかに優れている」と述べています。

文部科学省は、GIGAスクール構想を掲げて子どもに一人一台の端末を配布し、学習環境をよくしていこうと取り組んでいます。これを受けて学校は、効果的なICT活用の研究実践に努めています。ただ、新たなソフトを導入して研究実践に臨むことは、方法論の追求が第一義となり、学習者である子どもが置き去りになってしまっているのではないかと感じずにはいられません。ICTの手段化はよいとしても、目的化してしまっては本末転倒です。

紙媒体の読書、これは川島の言う「脳の全身運動になって、必要な能力を伸ばすことに役立つ」ことにつながると考えます。ここでの必要な能力とは、想像（頭の中でイメージすること）と創造（新しいものを生み出すこと）も含まれるはずです。

学生の皆さん、自らを読書へと誘い嗜好するために、「最初の4分間を頑張ると、その後のやる気が持続される」というズーニンの法則の下、まずは4分間読書から始めてみませんか。そして想像力・創造力を磨いていってはいかがでしょうか。

利用案内

開 館 時 間：8：45～17：30
休　館　日：土・日
※都合により臨時休館する場合があります。
・貸出冊数：学生 5 冊　一般市民 2 冊
・貸出期間：学生、一般市民ともに 2 週間

至誠館大学附属図書館
図書館だより第 34 号（2026.10.20 発行）
〒758-8585　山口県萩市椿東浦田 5000
Tel：0838-24-4081　Fax：0838-24-4093
E-mail：library@shiseikan.ac.jp
HP：https://www.shiseikan.ac.jp/library

至誠館大学附属図書館

図書館だより

第 34 号

Contents

・『私と本そして図書館』
副学長　熊谷　孝一
・おすすめの本
教授 枝光　美穂　　教授 佐々木　啓
・萩市民など地域の方々の図書館利用について
・「本読み選手権 2026」
・『読書への誘い～想像力・創造力を磨く～』
教授　吉田　安孝

『私と本そして図書館』

至誠館大学
副学長　熊谷　孝一



私は昔からあまり読書が得意ではありません。もちろん、読書が嫌いというわけではないのですが「本を最初から最後までゆっくり読む」ということに少し苦手意識があります。読み始めても途中でほかのことが気になったりして内容を十分に理解できないまま読み続けてまた、最初に戻ってしまうことがよくあります。そのために読書が趣味ですということは間違っても言えないタイプの人間です。

でも、図書館が嫌いというわけではありません。皆さんとは少し違う図書館への魅力を持っている人間かもしれません。

私が図書館を利用する一つの理由としては「必要な情報を探す場所」だと思うからです。仕事でわからないことがあった時や学生に何かを説明するためにもう少し詳しく調べてみたい時に図書館に行くと自分が探したかった情報だけでなく、その周辺にある様々な情報に出会うことがあります。

インターネットで検索すれば、必要な情報は短時間で見つけることはできるかもしれませんが、検索結果はその検索した言語に応じて表示されるのみで自分が知らなかったことやそもそも検索しようと思っていなかったことには出会えないのではないでしょうか？

図書館や本屋で自分が探そうと思っている間に別の本に出会える機会がある経験をした人は多いのではないでしょうか。タイトルが気になって手に取って少しページをめくってみると知らなかった考え方や自分の仕事には直接関係がなくても興味深いことに数多く出会えます。

私はこの出会いが楽しくて図書館や本屋に足を運んでいるのかもしれません。

また、教員という立場になってから図書館の利用にはもう一つの意味を感じるようになりました。図書館を利用する学生には様々なタイプがあります。一緒に勉強する、自習室として利用する、そんな理由で図書室を利用する学生は多くいるのではないでしょうか。

学生にただ単に「本を読みなさい」と言っても本来読書が得意でない学生にとっては負担にしかならないと私は思います。

すべてを最初から最後まで読む必要はありません。目次をながめ、興味のある章だけ読んで慣れていくことが大切だと思います。

興味があったらそこをさらに深めるために本を探す、そこから始めてはいかがでしょうか。

図書館は本を読むだけの場所ではないと以前の投稿で東京キャンパスの村田先生もおっしゃっておられました。新しいことを知る場所として、偶然の出会いがある場所として、そして何よりも自分の知らなかった世界を知る場所としての入口として図書館を利用してはいかがでしょうか。読書が得意ではない熊谷だからこそ図書館を今後も利用していきたいと思っております。

先生のおすすめの本

『日本語からの祝福、日本語への祝福』

李 琴峰著　朝日新聞出版　2025 年

現代社会学部
教授　枝光　美穂

本書は第 15 回梅棹忠夫・山と探検文学賞を受賞した作品である。著者の李琴峰氏は台湾出身で『彼岸花が咲く島』により芥川賞を受賞した作家だ。幼い頃から日本のアニメやゲームが身近にあったものの日本語を学ぼうとは思わなかったという李氏。そんな李氏が中学 2 年のある日突然「日本語やってみたいかも」と気紛れで勉強を始めた。

日本語の漢字について巡らせた考えが面白い。例えば『名探偵コナン』の会議のシーン。ホワイトボードに並んだ「月・火・水・木・金・土・日」を見てなぜ天体や陰陽五行の文字が？と首を傾げたそう。また、中国語に存在しない「名前」という語についても。「名」と「前」がどう関係しているのか。なぜ「前」なのか。「神の前で誓う」のように「名に懸けて誓う」という意味合いがあるから「前」？なのかと。漢字という四千年の歴史を持ち東アジアで広く使われていた文字が李氏と日本語を繋いでくれたと書いている。

東日本大震災直後、周りが留学を取り消す中、学費や人生計画を熟慮の末、強い思いで来日。大学院修了後は日本企業で働きながら小説を書き、後に作家として独立した。その知識量と突き進む力強さ、李氏の魅力にひかれずにはいられない。

『私たちの戦争社会学入門』

野上　元著　大和書房　2025 年

現代社会学部
教授　佐々木　啓

この本は、タイトルにもあるように「戦争」と「社会」との関係についてわかりやすく解説した本です。「戦争」と聞くと私たちはどうしても身構えてしまったり、あるいはそもそも「あってはならないもの」として考えがちですが、本書は一貫して大学生にもわかりやすく、そして同時に深く考えるためのさまざまな工夫がなされており、難しいテーマでありながら最後まで読みやすい本となっています。大まかな内容としては、古代から現在に至るまでの「歴史」および「戦争」と「社会」との関係が 12 の章立てで解説されています。

なお「はじめに」で、本書は「戦争をなくすことを目指す本」ではなく、あくまで「戦争と社会をめぐる探究」であると述べられています。その真意についてここではあえて解説しませんが、「戦争と社会の関係」を歴史や社会といった側面から考えるということがどのような意味を持つのかを、ぜひみなさん自身で考えてみてください。

現在も世界各地では戦争や争いごとが絶えず行われており、多くの悲劇が発生しています。そのような時代であるからこそ、「戦争と社会」について自分の頭でしっかりと考える必要があるといえるでしょう。

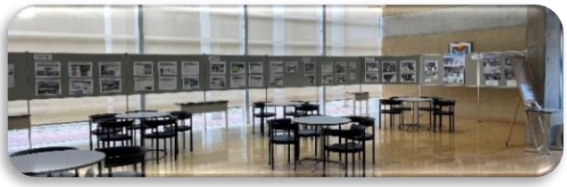
萩市民など地域の方々の図書館利用について

萩キャンパスにある附属図書館は、萩市民や萩市に通勤・通学されている地域の方々に利用していただけるよう、一般公開しています。

所蔵資料としては、社会福祉士や保育士などを目指す学生のための福祉関連分野、幼稚園教諭や中高保健体育教諭を目指す学生のための教育関連分野などの専門的な学術資料や実用書を重点的に収集しています。その他には、留学生のための日本語能力試験の問題集も充実しています。

また、図書館ロビーは展示スペースとしても活用しています。地域の方々も利用可能ですので、展示を希望される際はご相談ください。

地域の方々のご利用を、お待ちしています。



本読み選手権 2026

本読み選手権 2026 を行います。詳しい内容は以下のとおりです。学生のみなさんぜひ参加してください。

1.参加資格

至誠館大学に在籍している学生

2.対象とする本

雑誌・漫画を除く図書



3.実施部門・方法

＜読書レポート部門＞

① 自分の選んだ本を読んだ後、指定の書式で 1,000 字～1,500 字程度、手書きの場合は附属図書館指定の原稿用紙 2～3 枚以内に書く。

② 期限内に図書館（東京キャンパスの場合、東京キャンパス図書室）に提出する。

＜一押し記事部門＞

① 2026 年 4 月 1 日～2026 年 11 月 27 日までの間に発刊された新聞記事の中から一押しの記事を選び、記事の要約とともに一押しの理由を指定の書式で 1,000 字程度、手書きの場合は附属図書館指定の原稿用紙 2 枚以内に書く。

② 期限内に、新聞記事のコピーしたものとあわせて図書館（東京キャンパスの場合、東京キャンパス図書室）に提出する。※新聞の指定はなし。

4.提出期間

2026 年 10 月 27 日（火）～2026 年 11 月 27 日（金）※10 月 27 日～11 月 9 日は読書週間です。

5.賞及び副賞 ※審査により、該当者なしの場合もあります。

＜読書レポート部門＞

ベストコメント大賞（1 名）・・・図書カード 10,000 円分
グッドコメント賞（2 名）・・・図書カード 5,000 円分
ナイスコメント賞（3 名）・・・図書カード 3,000 円分

＜一押し記事部門＞

1 位（1 名）・・・図書カード 5,000 円
2 位（2 名）・・・図書カード 3,000 円
3 位（3 名）・・・図書カード 1,000 円

6. 審査・結果発表

審査は図書委員会が行います。
結果発表は、図書館だより・掲示板で行います。

『萩市民の健康づくり～心身の向上に向けて』

（山口県大学 ML 連携特別展 2026 年度テーマ『つくる』）

本学では、萩市の中高齢者の方を対象に、健康寿命の延伸を目的とした体力測定会を実施しています。健康状態を把握するとともに、健康づくりへの意識向上を図ることで、萩市民の皆様の健康増進に貢献しています。

また、地域公開講座では、視聴実験を通して「人は頭の中で意味づけをしながら考えている」ことを体験的に学んでいただきました。本学教授である吉田安孝先生がこれらの取組をまとめたものを、下記の期間、ロビーに展示しています。

展示期間：10/23（金）～12/24（木）